

Ⅱ 調査結果の概要

1 暮らし向き

問1 昨年に比べての暮らし向き

- ・「良くなった」 7.5% [「かなり良くなった」0.7% + 「少し良くなった」 6.8%]
- ・「悪くなった」 30.1% [「かなり悪くなった」6.6% + 「少し悪くなった」 23.5%]
→「悪くなった」は、女性の方が4.9ポイント多い。
- ・「変わらない」 61.5%

◆平成27年11月の調査（以下「前回調査」という。）と比較・・・「悪くなった」が9.3ポイント減少し、「変わらない」が7.5ポイント増。

問1-1 暮らし向きが悪くなった理由

- ・「収入が減った（働き手が減った）」36.6%
→男女共に最多。農林漁業（61.5%）で特に多い。
- ・「日常の生活費が増えた」29.7%
→女性の方が多い。
- ・「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」13.1%
→主婦及び大洲・八幡浜圏域で多い。

問2 暮らし向きの変化

- ・「良くなった」・・・[「道路など公共施設による便利さ」12.3% 「通勤や買物の便利さ」10.7% 「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」8.9%]
- ・「悪くなった」・・・[「貯蓄」43.4% 「所得・収入」35.7% 「レジャー・余暇生活」29.5%]
- ・「変わらない」・・・[「通勤や買物の便利さ」79.8% 「衣服」77.8% 「道路など公共施設による便利さ」76.8%]

◆前回調査比・・・「良くなった」が「貯蓄」を除いて増。

問3 暮らし向きの程度

- ・「上」 0.4%
- ・「中」 80.8% [「中の上」7.3% + 「中の中」40.8% + 「中の下」32.7%]
- ・「下」 12.1%

◆前回調査比・・・「中」が2.7ポイント増、「下」が2.3ポイント減。

問4 資産の程度

- ・「上」 0.4%
- ・「中」 67.9% [「中の上」8.2% + 「中の中」28.4% + 「中の下」31.3%]
- ・「下」 21.0%

◆前回調査比・・・「中」が2.7ポイント増、「下」が4.2ポイント減。

問5 生活のゆとり感

- ・「かなりゆとりがある」 13.0% →70歳代以上（22.4%）で特に多い。
- ・「少しゆとりがある方だと思う」40.3%
- ・「あまりゆとりがない方だと思う」33.8%
- ・「全くゆとりはない」10.1%

問6 暮らしに対する満足度

- ・「満足している」 67.4% [「十分満足している」8.6% + 「十分とはいえないが、一応満足している」58.8%]
- ・「不満だ」 29.0% [「まだまだ不満だ」21.7% + 「きわめて不満だ」7.3%]

◆全年齢層及び全職種で「満足」が「不満」を上回っている。

問7 日常生活での悩みや不安

- ・「老後の生活設計や家族の介護について」 58.5% →50歳代 (76.1%) で特に多い。
- ・「家族の健康について」 56.1%
- ・「自分の健康について」 55.4%
- ・「今後の生活費の見通しについて」 48.4%

◆20歳代以下では「自分の生活（進学、就職、結婚など）上の問題について」が50.0%で特に多い。

問8 普段の生活で不足しているもの

- ・「収入」 37.9%
→男女共に (男性38.1%、女性37.7%) 最多で特に多い。
- ・「自由に使える時間」 13.7%
→農林漁業で特に多い。
- ・「資産（土地、家屋、預貯金等）」 11.3%
- ・「友人・仲間」 4.9%

◆60歳代以上では「特にない」が特に多い。

問9 自由時間と収入についての考え方

- ・「自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい」 25.4%
→農林漁業で15.0ポイント減
- ・「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い」 47.1%
→前回調査より6.3ポイント増。勤め人で特に多い。
- ・「わからない」 27.5%

問10 日常生活で充実感を感じる時

- ・「家族団らんの時」 22.5%
→女性 (24.6%) で最多。30歳代から50歳代で最多。
- ・「趣味やスポーツに熱中している時」 21.3% →男性 (26.4%) で最多。
- ・「ゆったりと休養している時」 17.1% →前回調査より4.4ポイント増。
- ・「友人や知人と会合・雑談している時」 12.1%

◆前回調査比・・・20歳代以下では「勉強や教養に身を入れている時」が9.1ポイント減。

問11 暮らしの先行き観

- ・「良くなっていく」 9.6% →前回調査より50歳代で4.3ポイント増。
- ・「変わらない」 39.3%
- ・「悪くなっていく」 34.7% →60歳代 (47.8%) で特に多い。
- ・「わからない」 16.4%

◆前回調査比・・・「変わらない」が「悪くなっていく」より多くなっている。

問12 改善したい暮らし向き（今後の暮らしで力を入れたい項目）

- ・「貯蓄」 36.6% →50歳代以下では最多。
- ・「旅行・レジャー・余暇生活」 17.5% →60歳代 (30.0%) で最多。
- ・「食生活」 14.3% →70歳代以上 (31.6%) で最多。
- ・「住宅」 7.3%

問13 今後の暮らしに対する考え方

- ・「物質的にはある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」 23.5% →70歳代以上 (35.0%) で最多。
- ・「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」 19.0%
- ・「一概にはいえない」 42.9% →60歳代 (49.2%) で最多。

◆前回調査比・・・「一概にはいえない」が20歳代では10.2ポイント増。また、40歳代が10.2ポイント減。

問13-1 「心の豊かさやゆとり」の具体的内容

- ・「健康を大切にする」 40.0%
- ・「家族・友人とのふれあいを大切にする」 30.6%
- ・「趣味や習い事に生きがいを見つける」 14.0%

問13-2 「物質的な面」の具体的内容

- ・「耐久消費財（立派な家具、最新の自動車・電気器具など）のそろった快適な暮らし」 25.5%
→前回調査より5.5ポイント減
- ・「広くて設備の整った家に住む」 25.5%
- ・「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」 19.6%

2 広報・広聴

問14 県の広報活動の周知度（県の広報活動のうち知っているもの）

- ・「広報紙「愛顔のえひめ」」 45.8%
→60歳代以上で最多。松山圏域及び宇和島圏域を除く全圏域で最多。
- ・「テレビ広報番組」 45.4% →50歳代以下で最多。
- ・「県ホームページ」 16.4%
- ・「ラジオ広報番組」 10.7%

◆前回調査比・・・宇摩圏域では「どれも知らなかった」が11.6ポイント減。

問15 県のテレビ広報番組の視聴経験

- ・「見たことがある」 41.6% ・「見たことがない」 58.4%

◆前回調査比・・・「見たことがない」が40歳代以上で減。70歳代以上、八幡浜・大洲圏域で特に減少。

問15-1 テレビ広報番組を見ての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」 25.3%
→前回調査より30歳代以上で増。特に30歳代は11.6ポイント増。
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」 46.8%
→全年齢層で最多。特に20歳代以下は15.3ポイント増。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」 13.2%
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」 6.8%

問15-2 「見たことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」 61.5%
→全年齢層で最多。70歳代以上は特に多い。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」 13.9%
→前回調査より40歳代で12.3ポイント減
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」 12.5%

問16 県のラジオ広報番組の聴取経験

- ・「FM 愛顔のえひめ（FM愛媛）」 7.8%
- ・「週刊 愛顔のえひめ（南海放送ラジオ）」 6.4%
- ・「どれも聞いたことがない」 87.4%
→全年齢層で特に多い。全圏域で特に多い。

問16-1 ラジオ広報番組を聞いての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」 27.5%
→40歳代 (37.5%) 及び70歳代以上 (40.0%) では最多で特に多い。
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」 35.5%
→40歳代及び70歳代以上を除く全ての年齢層で最多。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」 18.1%
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」 6.5%

問16-2 「どれも聞いたことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」 49.4% →全年齢層で最多。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」 16.8%
→60歳代以上で少ない。
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」 5.2%

◆前回調査比・・・「放送されていることを知らなかった」が1.7ポイント増。

問17 広報紙「愛顔のえひめ」の周知度

- ・「知っていた」 52.9% →40歳以上で多い。
- ・「知らなかった」 47.1%

問17-1 広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいるか

- ・「全体をよく読んでいる」 12.3%
- ・「興味のあるところを選んで読んでいる」 49.3%
→全年齢層で最多。40歳代 (52.8%) 及び50歳代 (56.8%) で特に多い。
- ・「見出し程度しか読まない」 24.0%
- ・「ほとんど読むことはない」 12.6%

問17-2 広報紙「愛顔のえひめ」の感想

- ・「紙面は見やすく、情報量も適当である」 57.5%
→全年齢層で最多。30歳代 (67.3%) で特に多い。
- ・「紙面は見づらいが、情報量は適当である」 13.9%
→前回調査より20歳代以下で8.9ポイント減
- ・「紙面は見やすいが、情報量が少ない」 16.3%
- ・「紙面は見づらく、情報量も少ない」 3.5%

問18 広報紙「愛顔のえひめ」に取り上げるテーマの希望

- ・「県の行事・イベント・施設の紹介」 63.0%
→男女共 (男性58.8%、女性66.4%) に最多。60歳代以下で最多。
- ・「介護や福祉、医療に関すること」 50.1%
→70歳代以上で最多。
- ・「消費生活や暮らしに関すること」 45.0%
- ・「災害対策に関すること」 28.7%
- ・「県の施策の紹介」 17.7%

◆農林漁業では「農林水産業に関すること」が41.0%で特に多い。

問19 県政情報の情報源 (情報を得る方法)

- ・「テレビ」 59.1%
→全年齢層、全圏域で最多。
- ・「新聞」 44.1%
→30歳代以下で少ない。
- ・「市町が発行している広報紙 (誌)」 29.0%
→60歳代以上で多い。
- ・「県の広報紙」 27.8%

問20 今後の広報活動の取組み

- ・「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実（放送回数や放送時間の増）」 60.1%
→全年齢層で最多。全職種で最多で特に主婦（66.4%）が多い。全圏域で最多。
- ・「県の広報紙の充実（発行回数やページ数の増）」 34.4%
→60歳代以上で特に多い。
- ・「刊行物、ポスター、パンフレットの充実（種類や部数の増）」 28.4%
- ・「記者発表などマスコミの活用の充実」 20.4%

問21 県政について知りたい情報

- ・「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」 33.2%
→女性（38.7%）で最多。50歳代以下で最多。
- ・「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」 29.9%
→男性（34.3%）で最多。60歳代以上で最多。
- ・「県の施設の紹介や利用方法」 24.8%
- ・「県の行事や催しものなどのお知らせ」 24.3%

問22 県民の声を県政に反映させる手段

- ・「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」 32.2%
→男女共（男性29.9%、女性34.1%）に最多。40歳代以上で最多。
- ・「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」 24.1%
→30歳代以下で最多。
- ・「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」 10.9%
→20歳代以下（18.4%）で特に多い
- ・「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」 8.7%
→前回調査より20歳代以下で7.9ポイント減。

問23 県民の声（県への意見、要望等）の伝達方法

- ・「県に電話をかける」 23.2%
→男女共に最多。男性（27.9%）で特に多い。全職種で最多。
- ・「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」 13.4%
- ・「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」 9.1%
→70歳代以上で特に多い。
- ・「市町を通じる」 8.4%

◆「わからない」が29.3%で最多。

問24 県政出前講座の周知度

- ・「知っていた」 9.2%
→前回調査より30歳代及び70歳代以上で増。
- ・「知らなかった」 90.8%

問25 県政出前講座を利用したいかどうか

- ・「利用したい」 16.7%
- ・「利用したいとは思わない」 25.0%
→20歳代以下（40.8%）で特に多い。
- ・「わからない」 58.3%

問25-1 利用したいとは思わない理由

- ・「利用する時間がないから」 26.8%
→60歳代以下で最多。
- ・「講座は難しそうなイメージがあるから」 18.9%
- ・「県政に興味がないから」 16.2%
→70歳代以上（21.4%）で最多。
- ・「設定されている講座テーマを知らないから」 13.7%

3 愛媛県のイメージ

問26 現在の愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」 83.1%
→全年齢層、全圏域及び全職種で最多。
- ・「文化、スポーツ活動が盛んである」 25.1%
- ・「不便である」 24.6% →宇和島圏域で多い。
- ・「物価が安い」 22.4% →20歳代以下及び松山圏域で多い。

◆宇摩圏域では「経済や産業が盛んである」が多い。

問27 将来なって欲しい愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」 51.8%
→30歳代及び50歳代を除く全年齢層で最多。
- ・「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」 47.0%
→女性 (51.9%)、30歳代 (37.5%) 及び50歳代 (48.3%) で最多。
- ・「高齢者や障がい者にもやさしい」 28.3%
→50歳代以上、新居浜・西条圏域で特に多い。
- ・「物価が安い」 26.0%

4 県政への要望

問28 産業面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「雇用対策」 27.7%
→男女共に最多で、女性 (31.4%) が特に多い。30歳代から60歳代で最多。
- ・「道路整備」 19.9% →70歳代以上、宇摩圏域で最多。
- ・「観光の振興」 16.3% →20歳代以下で最多。
- ・「中小企業対策」 13.7%

◆前回調査比・・・「雇用対策」は5.8ポイント減。「観光の振興」は4.8ポイント減。

生活環境面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「介護・福祉サービスの充実」 36.9%
→男女共に最多。40歳代以上で最多。全圏域で最多。
- ・「医療、保健衛生機能の拡充」 18.4% →40歳代で多い。
- ・「子育て支援対策」 13.8% →30歳代以下で最多。
- ・「物価・消費者保護対策」 13.2%

◆前回調査比・・・「医療、保健衛生機能の拡充」は3.1ポイント増。「物価・消費者保護対策」は4.0ポイント減。

教育面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「学校教育の充実」 30.9%
→男女共に最多。60歳代以下では最多で、30歳代及び40歳代は特に多い。全圏域で最多。
- ・「社会教育の充実」 20.5%
- ・「青少年の健全育成」 16.7% →70歳代以上で最多。
- ・「芸術、文化の振興」 13.6%

5 特定課題

【県の長期計画の推進】

問29 状況が良くなった施策

- ・「愛媛県をもっとたくさんの人に知ってもらいたい」 33.2%
- ・「愛媛産品をもっとたくさんの人に選んでもらいたい」 31.3%
→自営業及び勤め人が多い。農林漁業、松山圏域で特に少ない。
- ・「自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい」 30.1%
→今治圏域 (46.6%) で最多で特に多い。
- ・「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」 23.3%

◆八幡浜・大洲圏域では「県産品の販路を拡大し、地域経済を活性化したい」が23.9%で特に多い。

問29-1 状況が悪くなった施策

- ・「県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい」 30.2%
→農林漁業を除く職業で最多 (自営業 (34.3%) で多い)。
→宇和島圏域 (40.5%) で特に多い。
- ・「交通事故を減らし、犠牲者を一人でも少なくしたい」 21.5%
→農林漁業及びその他で特に少ない。
- ・「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」 16.7%
→農林漁業 (26.1%) で特に多い。
- ・「原子力発電所の安全に万全を期する愛媛県にしたい」 15.4%

◆松山圏域では「水不足の不安を解消したい」が21.0%で特に多い。

【北海道とのつながり】

問30 北海道へ行った理由と回数

理由

- ・「この1年間は北海道へ行っていない」 94.7%
- ・「観光で行った」 4.7%
- ・「帰省等で行った」 0.5%
- ・「ビジネスで行った」 0.3%

回数

- ・「観光で1回」 88.9% 「観光で2～5回」 11.1%
- ・「帰省等で1回」 75.0% 「帰省等で2～5回」 25.0%
- ・「ビジネスで1回」 100.0%

問30-1 北海道への行程

- ・「飛行機で松山空港から別の空港を経由して」 81.3%
- ・「飛行機で広島空港から直行便で」 6.3%
- ・「飛行機で関西空港から直行便で」 4.2%
- ・「飛行機で高松空港から別の飛行機を経由して」 2.1%

経由した空港

- ・「羽田空港」 100.0% 「中部国際空港」 12.5% 「伊丹空港」 6.3%

問30-2 北海道とのつながり

- ・「北海道に家族、親戚、知人がいる」 30.7%
- ・「定期的に北海道に行く用事がある」 6.7%
- ・「仕事のつながりがある」 5.0%
- ・「以前北海道に住んでいたことがある」 2.9%
- ・「北海道出身である」 0.8%

問30-3 直行便が就航した場合の利用

- ・「1回は利用したい」 67.4% →全年齢層、全圏域で最多。
- ・「年に1回程度利用したい」 11.4%
- ・「年に2~4回程度利用したい」 2.2%
- ・「年に5回以上利用したい」 0.2%
- ・「利用しない」 13.5% →50歳代(16.4%)、今治圏域(18.1%)で特に多い。

【えひめ国体・えひめ大会・今後のスポーツの実施意向】

問31 えひめ国体を通じたスポーツへの関心度

- ・「高まった」 21.9% →70歳代以上(29.1%)、農林漁業(42.5%)で特に多い。
- ・「少し高まった」 38.3% →自営業(44.7%)、八幡浜・大洲圏域(43.5%)で特に多い。
- ・「変わらない」 31.9%
- ・「もともと関心がない」 7.9% →20歳代以下(12.2%)で多い。

問31-1 えひめ国体の開催の効果

- ・「愛媛の認知度の向上」 56.0% →50歳代以下で最多。
- ・「本県選手の競技力の向上」 50.3% →60歳代以上、農林漁業及びその他で最多。
- ・「県民全体の盛り上がり」 44.3% →20歳代以下及び70歳代以上、宇和島圏域(55.3%)で特に多い。
- ・「県外者の来訪による経済効果」 39.4% →30歳代から40歳代、自営業で特に多い。

◆「ボランティアの育成」は20歳代以下及び60歳代以上、自営業、主婦及びその他、八幡浜・大洲圏域及び今治圏域で多い。

問31-2 えひめ大会を通じたスポーツへの関心度

- ・「高まった」 15.6% →70歳代以上(25.6%)、農林漁業(32.5%)で特に多い。
- ・「少し高まった」 43.6% →自営業(50.5%)、八幡浜・大洲圏域(49.2%)で特に多い。
- ・「変わらない」 33.4%
- ・「もともと関心がない」 7.3% →20歳代以下(15.3%)、宇摩圏域(11.4%)で特に多い。

問31-3 えひめ大会の開催の効果

- ・「障がい者スポーツの振興」 44.3% →女性、50歳代以下で最多。農林漁業で特に多い。
- ・「本県選手の競技力の向上」 42.4% →60歳以上で最多。年齢層が上がるほど多い。
- ・「愛媛の認知度の向上」 41.7% →男性で最多。
- ・「障がいに対する理解」 34.3% →40歳代、勤め人、農林漁業で少ない。

◆「県外者の来訪による経済効果」は60歳代、自営業、宇和島圏域で、「ボランティアの育成」は70歳代以上、自営業及びその他、八幡浜・大洲圏域で多い。

問31-4 スポーツや運動の実施頻度

- ・「週に3日以上」 13.2% →20歳代以下(20.4%)で特に多い。
- ・「週に1~2日程度」 34.7% →女性(39.6%)で最多。30歳代(45.2%)で多い。
- ・「月に1~2回程度」 20.6% →男性(26.0%)で特に多い。
- ・「年に数日程度」 17.7% →50歳代(22.0%)で特に多い。

問31-5 スポーツに関わるボランティア活動への参加

- ・「ぜひ参加したい」 2.9% →20歳代以下(9.2%)で特に多い。
- ・「できれば参加したい」 26.6% →男性(27.3%)で最多。20歳代(30.6%)で最多。
- ・「あまり参加したくない」 24.4%
- ・「全く参加したくない」 15.4% →70歳代以上(21.2%)で多く、50歳代(10.1%)で少ない。
- ・「分からない」 30.7% →女性(35.0%)で最多。20歳代(16.3%)で特に少ない。

【うちエコ診断制度の認知度及び意識】

問 32 うちエコ診断制度の認知度

- ・「知らなかった」 92.3%
- ・「知っている(聞いたことはある)が、受けたことはない」 6.9%
- ・「受けたことがある」 0.8%

問 32-1 「うちエコ診断」を知った理由

- ・「イベント」 44.4%
- ・「新聞等の記事」 22.2%
- ・「テレビ」 11.1%
- ・「その他」 33.3%

問 32-2 「うちエコ診断」を受けない理由

- ・「うちエコ診断を受ける時間がない」 32.9% →30歳代以下で特に多い。
- ・「うちエコ診断の申込み方法がわからない」 24.7% →70歳代以上(50.0%)で特に多い。
- ・「うちエコ診断を受ける意味がないと思う」 20.5% →50歳代以上で特に多い。
- ・「省エネに興味がないので、うちエコ診断にも興味がない」 16.4%

問 32-3 「うちエコ診断」の受診希望とその理由

受けてみたい理由

- ・「家計の節約になるから」 38.7% →30歳代(45.9%)で特に多い。
- ・「省エネ・節電に関心があるから」 30.1% →30歳代及び60歳代以上で特に多い。

受けたくない理由

- ・「うちエコ診断の制度がわかりにくいから」 29.7% →50歳代以上で特に多い。
- ・「受ける時間がないから」 19.7% →30歳代以下、50歳代で特に多い。

【リユース(再使用)の推進】

問 33 リユース食器の利用

- ・「リユース食器は使いたくない」 24.7% →70歳代以上(35.1%)で特に多い。
- ・「使い捨ての容器のままが良い」 52.4% →20歳代以下(67.3%)で特に多い。
- ・「リユース食器を導入すべき」 18.2% →30歳代(21.5%)で多い。
- ・「リユース食器の利用を義務付けるべき」 4.8%

問 33-1 リユース食器の仕様の問題点

- ・「衛生上不安がある」 72.4% →60歳代(78.6%)で特に多い。
- ・「費用が食事代に上乗せされるおそれがある」 35.2% →50歳代(42.6%)で多い。
- ・「リユース食器を返却するのが面倒くさい」 21.4% →20歳代以下(32.0%)で特に多い。
- ・「破損や紛失が心配」 19.7%

【消防団の加入】

問 34 消防団に対するイメージ

- ・「地域防災に貢献している」 72.8%
→70歳以上(81.8%)で最多。年齢層が上がるほど多い。
- ・「地域とのつながりが深い」 46.8%
→70歳以上(54.5%)で多い。年齢層が上がるほど多い傾向。
- ・「活動や訓練に多くの時間をとられ負担になる」 20.4%
→男性(25.0%)が多く女性(16.7%)が少ない。30歳代及び40歳代で多い。
- ・「役に立っているか分からない」 14.6%

問34-1 消防団員の増加方法

- ・「若者の加入を促す」 51.0% →60歳代以上で最多。農林漁業及びその他で特に多い。
- ・「報酬、手当を増額するなど処遇を改善する」 48.6% →農林漁業(63.2%)で特に多い。
- ・「事務所に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動しやすい環境をつくる」 46.5% →年齢層が上がるほど多い。
- ・「イベントや広報により消防団への理解を深める」 38.7% →60歳代以上で特に多い。

【男女共同参画社会づくり】

問35 男女の平等意識(優遇されている)・分野別

- ・「家庭の中で」 男性(47.2%)、女性(8.7%)、平等になっている(36.3%)
- ・「職場の中で」 男性(56.6%)、女性(7.1%)、平等になっている(22.3%)
- ・「地域社会の中で(町内会、自治会など)」
男性(49.3%)、女性(7.0%)、平等になっている(28.5%)
- ・「社会通念や慣習やしきたりなどで」 男性(68.5%)、女性(3.3%)、平等になっている(16.1%)
→男性で特に多い。
- ・「法律や制度のうえで」 男性(38.3%)、女性(6.2%)、平等になっている(41.8%)
- ・「政治の分野で」 男性(65.2%)、女性(2.1%)、平等になっている(20.1%)
→男性で特に多い。
- ・「学校教育の分野で」 男性(21.7%)、女性(3.7%)、平等になっている(58.0%)
→「平等になっている」で特に多い。

※「優遇されている」は、「非常に優遇されている」+「どちらかと言えば優遇されている」の合計

【介護不安に関する意識】

問36 家族の介護についての不安

<介護保険制度や介護サービス等に関すること>

- ・「介護に必要な費用がどのくらいか分からない」 62.3%
→70歳代以上(68.0%)で多い。
- ・「適切な介護サービスが受けられるかどうか分からない」 48.1%
- ・「介護が必要となった時に、まず何をすべきなのか分からない」 42.9%
→男性、20歳代以下で多い。60歳代で特に少ない。
- ・「介護保険制度のしくみが分からない」 39.3%
- ・「介護に関する相談先がわからない」 20.4%

<介護全般に関すること>

- ・「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」 52.5%
→女性、60歳代以上で多い。
- ・「家族等の介護が必要となった場合、どのような状態になるのか想像がつかない」 49.9%
→女性で多い。60歳代で少ない。
- ・「家族や親族に介護が必要となった時に誰が介護を担うのか決まっていない」 29.6%
→50歳代から60歳代で少ない。
- ・「介護の負担により、家族や親族との関係が悪化する恐れがある」 21.2%
→60歳代で少ない。
- ・「他に介護を分担してくれる家族や親族がいない」 19.4%
→年齢層が上がるほど多い。

<仕事や勤務先の支援制度に関すること>

- ・「現在の仕事を辞めずに、介護と仕事を両立するための具体的方策が分からない」 27.3%
→男性、50歳代以下で特に多い。

- ・「自分が介護休業を取得すると収入が減る」 22.2%
→30歳代から50歳代で特に多い。
- ・「代替要員がいないため、介護のために仕事を休めない」 20.5%
→男性、30歳代から50歳代で特に多い。
- ・「勤務先の両立支援制度が分からない、若しくは利用しにくい雰囲気がある」 13.0%
→50歳代以下で特に多い。

【特殊詐欺に関する意識】

問 37 知っている特殊詐欺の手口

- ・「オレオレ詐欺」 97.0%
→全年齢層で90%以上で特に多い。
- ・「還付金詐欺」 87.1%
→20歳代以下(69.1%)で特に少ない。30歳代以上は85%以上で多い。
- ・「架空請求詐欺」 83.0% →70歳代以上(63.9%)で特に少ない。
- ・「金銭商品取引名目の詐欺」 41.9%

◆「オレオレ詐欺」、「還付金詐欺」、「架空請求詐欺」がよく知られている。

問 37-1 特殊詐欺の被害防止対策

- ・「新聞やテレビなどから最新の詐欺の手口に関する情報を入手」 47.1%
→30歳代及び60歳代以上で多い。
- ・「ナンバーディスプレイ機能の活用」 45.2%
→40歳代から50歳代で特に多い。70歳代以上で少ない。
- ・「非通知電話拒否の設定」 40.4%
→30歳代及び50歳代で多く、70歳代以上で少ない。
- ・「在宅時でも留守番電話の設定」 28.4%
→40歳代以上で特に多い。
- ・「自宅の電話番号を電話帳から削除」 28.2%

問 37-2 特殊詐欺に関する情報提供の方法

- ・「テレビの広報」 84.8% →全年齢層で75%以上で特に多い。
- ・「新聞雑誌の広報」 55.2% →30歳代以上で特に多い。
- ・「広報紙への掲載」 46.9% →60歳代以上で多く、20歳代以下で少ない。

【サイバー犯罪被害防止対策】

問 38 インターネット利用時のサイバー犯罪に対する不安

- ・「不安を感じる」 69.4% →50歳代(81.5%)で最も多い。
- ・「不安を感じない」 5.7% →20歳代以下(11.3%)で多い。
- ・「わからない」 24.9% →70歳代以上(53.3%)で特に多い。

問 38-1 県警におけるサイバー犯罪被害防止対策

- ・「十分である」 2.9% →20歳代以下(6.3%)で特に多い。
- ・「十分であるが、更なる取り組みが必要である」 36.7% →20歳代以下(47.9%)で多い。
- ・「十分でない」 15.7% →50歳代(20.6%)で多い。
- ・「わからない」 44.8% →70歳代以上(56.1%)で特に多い。